

選定委員会における指定管理についての評価の共有（理研キッズ）

令和7年度分評価

指定管理者の指定管理に関する評価シート

1 指定概要

施設概要	名称	放課後子どもひろばしちりがはま・鎌倉市しちりがはま子どもの家「なみのね」
	所在地	鎌倉市七里ガ浜東五丁目3番3号
	名称	放課後子どもひろばふじづか・鎌倉市ふじづか子どもの家「かなりや」
	所在地	鎌倉市寺分418番地10
	名称	放課後子どもひろばおおふな・鎌倉市おおふな子どもの家「つばめ」
	所在地	鎌倉市大船二丁目10番3号
	名称	放課後子どもひろばだいいち・鎌倉市だいいち子どもの家「うみがめ」
	所在地	鎌倉市由比ガ浜二丁目9番13号
	名称	放課後子どもひろばおなり・鎌倉市おなり子どもの家「こぼと」
	所在地	鎌倉市御成町18番10号
指定管理者	名称	株式会社理研キッズ
	住所	横浜市西区高島二丁目14番17号
指定管理期間		令和4年（2022年）4月1日～令和9年（2027年）3月31日

2 評価

（1）管理運営の状況

項目	評価内容	適否
開館時間、休館日等	仕様に定められた開館予定日数、開館時間は守られているか。	○
管理運営体制	①利用者数は適正か	○
	②業務執行体制（各業務、作業の責任者等）が明確になっているか。	○
	③業務に必要な職員数は確保されているか。	○
	④管理運営及び業務に必要な有資格者を必要数配置しているか。	○
施設管理体制	①利用実績に関する帳簿が作成され、適切に保管されているか。	○
	②業務日誌等の報告書、点検記録は適切に保管されているか。	○
	③生じた事故の記録は保管されているか。	○
研修体制	計画的に研修等を実施しているか。	○
市との連絡	①各報告書や事業計画書が適切に提出されているか。	○
	②緊急時の連絡体制が明確化されているか。	○
再委託等	①指定管理業務の全部、または主たる業務を第三者に再委託していないか。	○
	②市の承諾なしに、業務を第三者に委託、請け負わせていないか。	○
	③再委託先から適切に業務報告をさせるなど、再委託先の業務を適切に管理しているか。	○
利用許可	①利用者の平等な利用が確保されているか。	○
	②利用までの手続きが円滑に処理されているか。	○
利用料	①利用料の徴収は適切に処理されているか。	○
	②利用料の減免の手続きは適切に処理されているか。	○
施設等の維持管理	①法定保守点検は点検内容、時期等が法令基準に基づき確実に実施されているか。	○
	②点検によって異常等が認められた場合、速やかに修繕、交換及び調整等の適切な処置が実施されているか。	○
	③施設、設備等が利用に支障をきたすような状況のまま放置されていないか。	○
備品の維持管理	備品の保管及び管理は適切であるか。	○
施設等の清掃	整理整頓及び定期的な清掃が適切に行われているか。	○
危機管理等	①（夜間等）職員不在時の警備体制が明確化されているか。	○
	②不審者等に対応するためのマニュアルが整備されているか。	○
	③鍵の管理は適切に行われているか。	○
	④災害発生時のマニュアルは作成されているか。	○
	⑤災害発生等を想定した避難訓練を年2回以上実施しているか。	○
情報管理	個人情報等の管理が適切に行われているか。	○

(2) 経営の状況

資格	指定管理者の申請資格に抵触する事項はないか。	○
収支状況	適正な経費の執行管理が行われているか。	○

適否基準

「○」：適切である。 「△」：概ね適切である。 「×」：適切でない。

3 利用者意向調査の結果

(1) 指定管理者が行った利用者意向調査の結果

①利用者意向調査の実施内容	ア 調査方法 指定管理施設において、紙媒体による実施。 無記名にて記入のうえ、施設へ直接提出。 イ 回答者数 385人 ウ 質問項目 別紙参照
②調査の結果	別紙参照
③調査の結果得られた主な意見・回答	・支援員が温かく対応してくれ、安心して預けられるとの声が寄せられた。 ・子どもが楽しく過ごしており、学童やひろばに行くのを楽しみにしているとの記述が見られた。 ・プログラムや地域交流の活動が楽しいという感想があった。 ・子どもの安全を見守ってくれていることに感謝する意見があった。 ・職員の言葉づかいや対応について気になるという指摘が見受けられた。 ・高圧的に感じる職員がいるとの意見があった。 ・子どもへの注意の仕方を、より丁寧にしてほしいという要望があった。 ・施設が混雑するため、外遊びの機会を増やしてほしいとの声があった。 ・避難訓練や安全対策の方法について、見直しを求める意見があった。 ・けがや体調不良時の対応について、心配する声が寄せられた。 ・おやつや昼食の内容について、子ども向けや健康面への配慮を望む意見があった。 ・ひろばでもおやつを提供してほしいという要望が挙がった。 ・利用手続きや申請方法をもっと柔軟にしてほしいとの声があった。 ・アプリや予約システムが使いにくいという指摘があった。 ・学年が上がっても利用しやすい工夫や、利用時間の拡大を求める意見があった。

4 指定管理者による自己評価

(1) 利用者の要望等を把握し、それらを反映する取組についての評価

定期的なアンケートの実施、保護者懇談会の開催、児童のリクエストBOXの設置やこども会議の開催等を通じ、要望等を確認している。その内容の分析を行い、必要に応じ、改善策を利用者へフィードバックしている。

(2) 様々な媒体を用いた利用者への情報提供についての評価

毎月のお便りに加え、メール、HPを活用し、利用者へ情報を伝えている。さらに本年度から保護者用のマイページ機能のある、利用予約システムを導入した。日々の様子については、連絡帳やお迎え時の会話や、電話などを通じ、密なコミュニケーションを取るよう努めている。保護者懇談会も開催している。
--

(3) 全体的な評価

前年度から継続し、放課後かまくらっ子事業の理念である、出あう・つながる・ふるさとで自ら育つを根底に、さらにバージョンアップをすることができた1年と考えている。各施設でこどもまんなかをテーマに様々な取り組みをすることができたと自負している。こどもたちの自主組織としての「委員会」活動では、おやつ・おもちゃ・図書など多岐にわたり、こどもたちが自ら考え、実際に予算を与えて運用する姿は、こども主体の活動をする上で大きな勇気を得た。委員会に加え、「マイスター」「クラブ」など多様な児童の要望に合わせた形態での活動が広がり、より多くの児童が自主的かつ、活躍できる場を創造することができたと感じている。保護者懇談会に加え、保護者との面談や茶話会を実施し、保護者との対話も心がけることができた。さらに保護者と一緒に施設運営をすることを実現すべく、参加実績はまだ少ないものの、プログラムへの自由な参加の声掛けをしている。今後より一層多くの保護者を巻き込めるよう工夫して重ねていきたい。
--

総合評価
【出あう】多様なプログラムを実施しており、子どもたちに日常では得難い体験を提供している。毎週、地域の方や大学生など外部講師を招いた体験活動を実施している施設がある一方で、支援員によるプログラムが多数を占める施設もある。今後は、より積極的に地域との出あいを生み出し、地域の方々が持つ多様な専門性に触れる機会を増やしていただきたい。また、子どもたちの様子を把握し、現場の声を反映しやすい支援員プログラムも有意義であることから、「週1回のプログラム」という枠にとらわれず、柔軟に実施されることを望む。 【つながる】保護者アンケートや日々のお迎え時のコミュニケーションを大切にし、お弁当の量が多い、金額が高いといった声を受けて発注先と調整するなど、改善に向けて取り組んでいる点は評価できる。一方で、「アフタースクールの子には、そこまで手をかけられない」と言われたことや、「運営スタッフの方に伝える方法がわからないので、ご意見箱があればよい」、「上から目線で話してくる方が多い」といった今回収集した保護者の声に対して、回答内容や対応事例が保護者や市へ十分に共有されていない。今後は、こうした声への対応状況や改善の取組を丁寧に示していただきたい。 【ふるさとで自ら育つ】おやつ時間を自由化している施設もあり、子どもたちの主体性を尊重しながら、友人と一緒に食べる喜びや時間管理を促す仕組みとして有効である。他施設への展開も検討されたい。しちりがはまのセブンビーチプロジェクトとの連携プログラムや、だいいちで中庭を自分たちの手で開拓する取組など、単発のイベントにとどまらず、地域や施設内で連続性のある活動を展開している。こうした積み重ねにより、子どもたちの自発的な試行錯誤や挑戦する気持ちを育み、ふるさとへの愛着の醸成にもつながっているようにうかがえる。また、夏休みという時期性を生かし、中高生との協働を積極的に進め、子どもたちにとってロールモデルとなるお兄さん・お姉さんとの交流を通じた成長の機会を生み出している点も注目される。一方で、「安心してかまくらっ子を利用できていますか。」という設問に対し、ある施設では過半数が「できていない」と回答しており、早急な対応が求められる。 【その他】アンケート結果には厳しい意見が多く見受けられることから、保護者の意見に対する対応状況や市への情報共有については、なお十分とは言えない。今後は、具体的な対応方針を定めた上で適切に実施し、その結果や保護者の反応等も含めて、丁寧に報告していただきたい。

6 放課後かまくらっ子推進部会の意見

【評価シートに関して】

- ・実際に現場を視察した際も、調査で挙げられたような楽しそうに過ごす子どもの姿が見られたり、地域との交流プログラムの様子などを確認したりしており、本市の掲げる理念に基づいて、適切に運営している施設が多いと理解している。
- ・外遊びの機会の増加といった学校側との交渉が必要な項目や、ひろばでのおやつ提供などの体系的な項目に関しては、指定管理業者だけでは解決は困難であると認識しているが、他方で、避難訓練や安全対策への見直しの声、けがや体調不良時の対応についての心配などについては、具体的にどのような改善が必要なのかを早期に検討し、解決を図る、もしくは保護者に対して説明をすることが重要であると思われる。調査後の対応について、合わせて記載することを今後求めたい。
- ・職員の言葉遣いや高圧的な態度に関しては、これまでもしばしば保護者や子供から挙げられてきたものであり、改善が見られず、結果として問題が重大化した施設があったことは非常に残念であった。今後、こうしたことのないよう、特に現場の管理的なスタッフの雇用、研修、サポートについては、万全を尽くしていただきたい。
- ・自己評価において記述されている子どもの自主組織については、子どもの主体性を尊重したマイスタープログラムなどが高い効果を上げていると視察からもうかがえる一方で、以前から施設に対して改善を求めてきた学校的な「委員会」活動については、変化がなく、子どもからも「やらされている」という声が聞かれていたことは残念であった。また、保護者懇談会に関しても、一方通行になりがちなスタイルとなっており、学校的であることが問題と思われる施設も見られた。サードプレイスとしての機能を重視し、学校を意識させすぎない現場での運営について、引き続きサポートしていただけると幸いである。

【アンケート項目に関して】

- ・②のどんな思いについては、「とてもつまらない」を加えた5件法が妥当である。また、その理由を追加質問として加えなければ、要因が判断できず、活動に活かすことができない。※以下、同様。
- ・③については、主語がないため、子どもなのか保護者なのかわからない。「できていない」がかなりの割合を占めることから、早期の改善が必要だが、不安の要因の把握ができていないのか不明。
- ・④については、「行き届いている」とは、具体的にどのような状況なのかわからない。表現方法を変えるべき。
- ・⑩から⑭については、クロス集計等で結果を表さなければ活かすことができない。また、「食べたことはない」の選択肢は必要ない（その前段で質問を飛ばすように設定すべき）。
- ・総じて調査項目の設定について、改善の余地が多いと判断される。調査結果を日頃の事業運営に反映できるよう、見直しが必要であると思われる。

【各施設のプログラムに関して】

- ・週に一度以上、体験活動をしっかりと展開していることがわかる。全体的に参加児童数に対して、プログラムへの参加児童数が半数以下と少ない傾向にあり、保護者のアンケート調査の自由記述からも、参加しなかったができなかった、事前の申し込みがネックになっているという意見が散見された。準備物等が必要なプログラムでは仕方がないと思われるが、できるかぎり、子どもが参加を希望した場合は体験できる仕組みづくりを目指していただきたい。
- ・子どもにとってロールモデルとなる地元高校生や中学生が関るプログラムを開催している点は非常に重要であり、高く評価できる。
- ・支援員によるプログラムが展開されていることも好ましいが、可能であればもう少し頻度を上げることで、子どもの体験の機会の充実につながる。
- ・子どもが講師となったプログラムについては、自己実現という観点からも優れているので、今後も続けるようサポートしていただきたい。
- ・だいいちとおなりとの交流など、近隣の施設間の交流については、進学先の中学が同一であることなどからも、重要であると思われる。定期的に展開しているからこそ、子どもが主体的に参加できるような工夫を講じて、ただの交流からさらに充実した活動に高めてもらうことを期待している。
- ・施設外での活動も増えてきており、好ましいといえる。今後も安全面に配慮しながらも、積極的に子どもが豊かな体験に触れられるような機会を設定していただきたい。
- ・複数の施設で共通したプログラムが多く、対して、立地している地域の講師によるプログラムが少ないといえる。地域の捉えにおいて、もう少し子どもが生活する範囲を重視し、準備したプログラムを複数施設で展開するのではなく、地域資源の発掘とプログラム化をコーディネーターには担っていただけるよう指導していただきたい。
- ・子どもの家の子だけが対象ではないかと思われるプログラムが散見される。希望する子どもが登録等に関係なく参加できるよう、引き続きお願いしたい。